

(2) 東北



東北地域では、景気はやや弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産は減少している。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

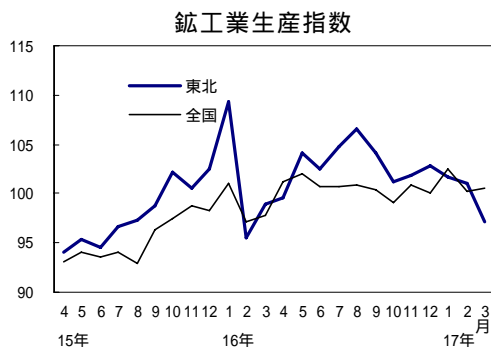
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 17 年 2 月）	今回（平成 17 年 5 月）	
景況判断	持ち直している	やや弱含んでいる	
個人消費	おおむね横ばい	やや弱含み	
住宅建設	増加	大幅に増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は減少している。

電子部品・デバイスは、液晶素子が海外メーカーの携帯電話用部品の変更が予定されていることによる在庫調整が行われたことや、コネクタ、モス型半導体の一部の生産拠点が海外に移転した影響を受け、減少している。食料品・たばこは、ビール・発泡酒、冷凍水産食品、生菓子等が前期を下回ったため、減少している。情報通信機械は、外部記憶装置が海外への生産移管が図られたこと等により、減少している。一般機械は、産業用ロボットの受注が自動車関連を除いて前期を下回ったため、減少している。電気機械は、小型電動機等が前期を下回ったことから、減少している。また金属製品工業、輸送機械、化学の生産が好調であったことから、全体としての減少を押し止めている。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期		
電子部品・デバイス	19.3	2.4	4.1	1.7	40.3		
食料品・たばこ	12.9	2.5	1.5	0.1	35.2		
情報通信機械	11.6	6.6	20.1	9.4	27.5		
一般機械	8.6	7.8	2.6	4.8	68.0		
電気機械	5.8	5.4	2.1	4.2	19.6		
鉱工業	100.0	3.0	1.9	1.4	2.6		

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1~3月期は速報値。

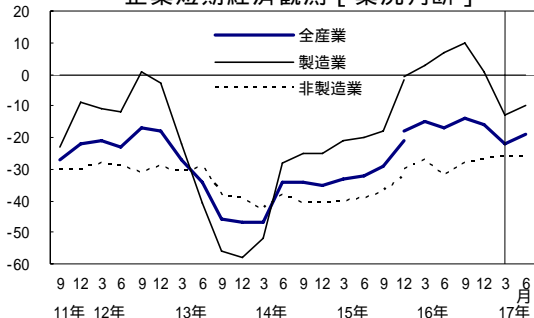
(備考) 1. 12年=100、季節調整値。

2. 平成17年3月の東北は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。

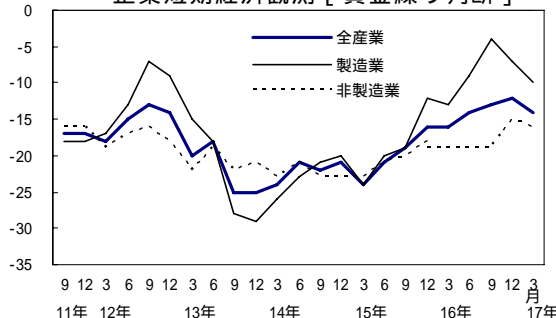
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



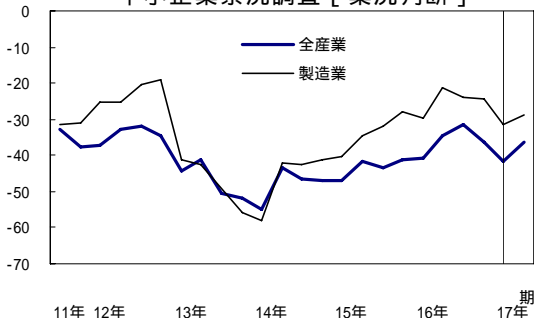
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年6月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「新年度に入り、大手クライアントの受注量は増えている。しかし、資材部、会計課の査定が厳しくなっているので3か月前と比較して変わらない(広告代理店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 16年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

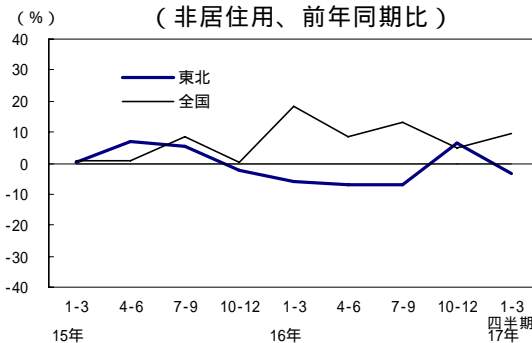
(前年度比、%)

	16年度実績見込み	17年度見込
全産業	23.1 (1.9)	6.1
製造業	57.3 (3.2)	6.3
非製造業	5.1 (0.1)	5.8

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

建築着工床面積

(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

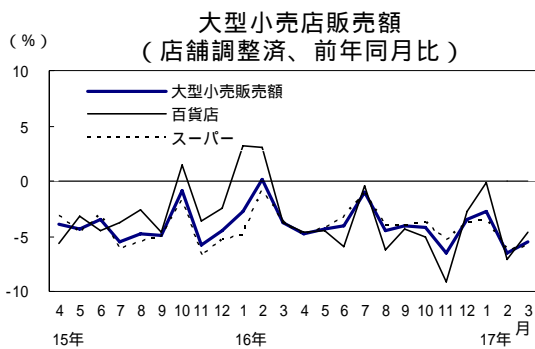
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、輸入ブランド品を始めとする身の回り品や飲食料品は、好調だったものの、春物衣料が低調であったため、全体として、ほぼ横ばいに推移した。2月は、大雪による天候不順の影響により、主力の衣料品を中心に不振となり、前年を下回った。3月は、身の回り品の鞆や旅行用バッグ等に動きがみられたものの、気温が低めに推移したことにより、春物衣料が低調となり、全体では前年を下回った。なお日本百貨店協会によると、東北地区の4月の売上高は、前年同月比で4.1%の減となっている。

スーパーは、飲食料品が横ばいであったが、大雪等の天候不順の影響で春物衣料が振るわず、全体では前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

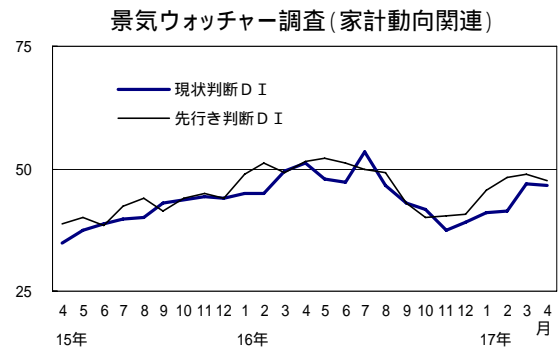
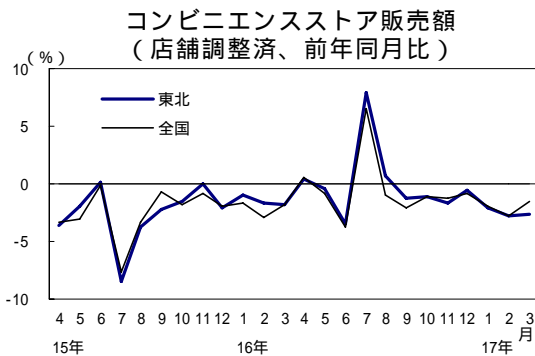
「来客数は、前年比103%と伸びているが、一品単価は下がっており、売上は前年並みと変わらない。相変わらず安い商品を買うため、買い回りしている傾向にある(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	16年4-6月	7-9月	10-12月	17年1-3月
大型小売店	4.4	3.2	4.6	4.8
百貨店	5.0	3.5	5.4	3.7
スーパー	4.1	3.1	4.3	5.1
コンビニ	1.2	2.5	1.1	2.5
景気ウォッチャー	48.8	47.6	39.4	43.0

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

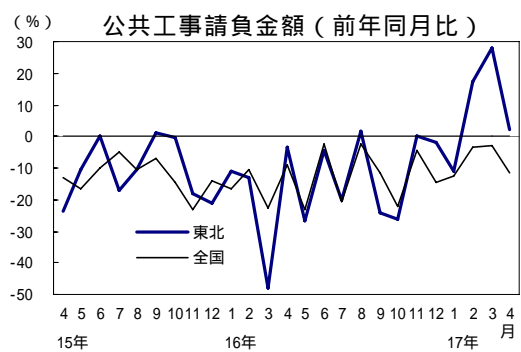
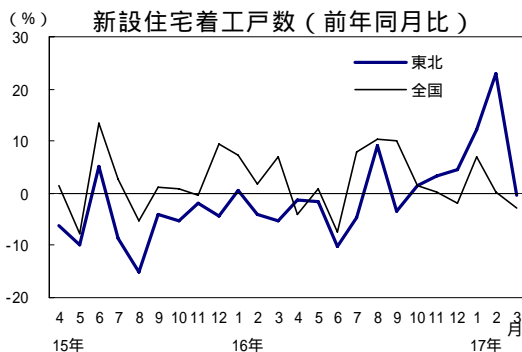
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

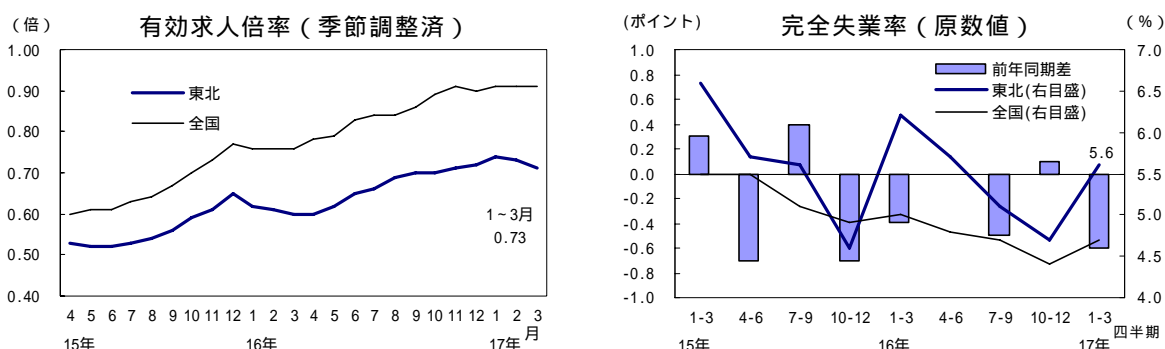
分譲、貸家が前年を大きく上回ったことから、全体でも大幅に増加している。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると前年度を下回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



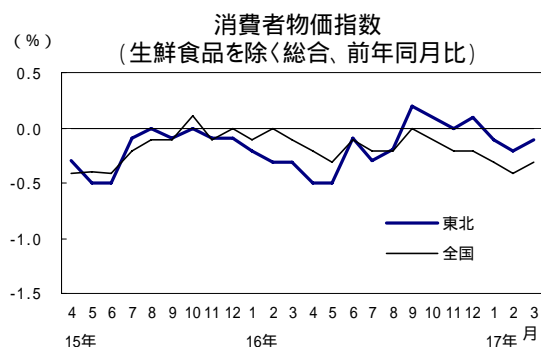
景気ウォッチャー調査（4月）[雇用関連（現状）]
「地元の募集はほぼ前年並みであるが、東京、大阪等からの流通を中心とした出先系の募集が前年に比べ増えてきている。新球団の効果だけではなく、全体的に募集が増えている（新聞社[求人広告]）」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額が増加している。
4月に負債総額が大幅に増加している。

- (3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	（件、億円、％）				
	16年4-6月	7-9月	10-12月	17年1-3月	17年4月
倒産件数	244	222	239	234	78
（前年比）	20.5	23.7	3.9	4.1	8.2
負債総額	1070	444	1435	832	579
（前年比）	29.2	67.8	91.6	3.8	236.0



景気ウォッチャー調査（4月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・ガソリンの値上げが製造業、ハウス農家等様々な形で悪影響を与えている（経営コンサルタント）。

<先行き>

- ・4月に入り、明らかに住宅取得を年内に考えている客が動き始めている。（住宅販売会社）

景気ウォッチャー調査（合計）

